

【インタビュー】不妊犬・不妊回収車にゴミのように捨てられ... - ペット天国日本が抱... 3/3 ページ

く感染症にかかりやすくなります。全身の毛が抜けたり、爪が肉球に入って腐ったり。体にひどい負担がかかるほど出産を繰り返させる業者もいます。私たちはこうした悪徳業者を「パピーミルク」(子犬製造工場)と呼んだりしていますが、彼らはペットを金儲けするためのモノとしか見ていません。限界まで産ませるだけ産ませて、子犬を産まなくなればお金がかかると捨てて、売れ残れば廃棄するのです。



12月に開催されたシンポジウムの様子

——こうした悪徳業者を排除するためにも動物愛護法を改正して規制を厳しくすべきだと

はい。日本では、ペット産業を取り巻く業界の都合を軸にすり合わせるという形で作られています。これでは本当の動物愛護法とはいえません。日本の憲法を変えないと禁止にできないとか、不透明な理由から法改正が長年進んでいませんが、例えばイギリスでは、衝動買いを促すような子犬の店頭販売は規制の対象となり、ドイツでは飼う側にも当然の飼育規制を法整備しています。繁殖者には、繁殖の回数制限も明記しています。

今回の改正では少なくとも、「深夜販売、インターネットのクリック販売、ネットオークション、悪徳繁殖業者の温床になっているペットの競市などへの厳しい規制」と「8週齢以下の犬は親犬から離さない、幼年齢扱いの徹底化」を求めていきたいと考えています。

——8週齢以下の犬はなぜ親から離してはいけないのですか？

